



〈雑録〉クラーク教授ノ生産力説ヲ難ズ(2)

五百旗頭, 眞治郎

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 23(3):509*-521

(Issue Date)

1917-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052777>



クラーク教授ノ生産力

説ヲ難ズ（其二）

五百旗頭眞治郎

四

次ニ吾人ハクラーク教授ガ、教授ノ利子説ニ附隨シテ述ベタル論考ヲ吟味セザルベカラズ。教授ニ從ヘバ、資本財ヲ離レテ考ヘタル眞資本ニハ、時間ノ間隔ヲ撤去シ、労働ト同時ニ其成果タル享樂財ヲ生ゼシムル作用アリ。吾人ノ見ル所ヲ以テスレバ、此論ハ當ニ眞理ヲ去ツテ彷徨スルノ危險ニ陷レルモノナリ。

クラーク教授曰ク。未ダ眞資本ヲ有セザル社會ニ於テ、生産ニ必要ナルハ労働ト時間ナリ。然リ終局ニ於テ生産ニ不可缺ナルモノハ労働ナリ。然ルニ、迂回的生産ヲ爲スコトニヨリ利益ヲ獲得シ得ルニ至ラバ、労働ハ先ヅ道具即チ資本財ヲ造ル爲メニ用キラルベシ。此場合労働者ハ斯ノ如キ資本財ヲ用キテ後初メテ得ラルベキ

享樂財ノ獲得ヲ暫時ノ間待タザルベカラズ。即チ資本財中ニハ「勞働ノ成果ヲ得ルガタメニ待つ」ト云フコトガ含マレ居ルモノナリ。然レドモ、眞資本ヲ有スル社會ニ於テハ事情ハ大ニ之ト相違スベシ。吾人ハ生産階梯ヲA・A・A・A等ノ文字ヲ以テ表スコトヲ得ベシ。例之是等ノ文字ガ順次牧場ノ羊・羊毛・織物・衣服ヲ表スト云フガ如シ。而シテ順次繼續的ニ生産ノ過程ニアル是等ノ財ハ、既ニ造上ゲラレテ完成品トナリタルモノハ社會ノ慾望ヲ充足シ、其前ノ階梯ニ在ル財ハ順次一段ヅ、完成品ニ近ヅキ全體トシテ常ニ一定ノ順列ヲ有シ變ズルコトナシ。斯ノ如キ組織ヲ有スル社會ニ於テハ何人モ生産ノ成果ヲ待つノ要ナシ。今日原料品——例ヘバ羊毛——ニ加工シツ、アル勞働者ハ、同ジ今日完成品——例ヘバ衣服——ヲ得ベシ。モンタナノ牧場ニ於テハ牛ヲ養ヒ、ペンシルベニヤノ森林ニ於テハ皮ヲ鞣シ、ブロックトンノ工場ニ於テハ靴ヲ造ル。而モ生産階梯ニシテ變化セザル

限り、牛飼ハ今日ノ勞働ニヨリ、今日實質上靴ヲ創造スルモノニシテ、且ツ今日其レヲ受ケ得ベシ。斯ノ如キコトハ眞資本ガ有リテ初メテ可能トナルモノナリ。眞資本ハ「待つコト」ヲ除ク方法ナリ。時間ノ間隔ヲ撤去スルモノナリ、勞働ト同時ニ勞働ノ成果タル享樂財ヲ得セシムルモノナリト。クラーク教授ハ上述ノ如キ思想ヲ反覆開陳シテ倦ム所ヲ知ラズ。

上述教授ノ説ニシテ若シ當レリトスレバ、是ニ由テ先ニ教授ノ説ノ缺陷トシテ指摘セシ點モ説明セラル、コトナルベク、從テ教授ノ説ニ缺陷アリトシテ之ヲ批難スルコト能ハザルベシ。先ニ述ベタル如ク、教授ハ「何故資本財ニ歸スベキ生産物ガ、其資本財ヲ造リシ勞働ニ歸スベキモノニ非ザルカ」ト云フ問題ニ對シ少シモ論及スル所ナカリキ。教授ニシテ若シ「資本財ニ歸スベキ生産物ハ其資本財ヲ造リシ勞働ニ歸スベキモノナリ」ト主張セシナラバ、其結果、資本ノ全生産物ハ減損ノ全體ト等シカルベキ譯ト

ナリ、從テ資本ノ純生産物ナルモノハ別ニ存スルモノニ非ズト主張セザルベカラザルニ至リシナラン。然ルニ先ニ述ベタル教授ノ論法ニ從ヘバ、減損ノ問題ハ最初ヨリ起リ得ズ、又資本財ヲ作りシ過去ノ労働ハ之ヲ考フルノ要ナシ。クラーク教授ノ明言スル所ニヨレバ、完成品A(例

ヘバ衣服)ハ數箇月又ハ數年前ニ原料Aヲ造リシ労働者、及ビ其労働者ノ製品ヲ受繼ギテソノ次ノ階梯ニ於テ働キタル労働者、竝ニ順次ソレ以下ノ階梯ニ於テ働キタル労働者等ノ生産物ニ非ズシテ、今日Aヲ造ル労働者ノ生産物ナリ。

又今日A・A'ヲ造ル労働者ノ生産物ナリ。今、

完成品A' 衣服 ハ今日ノ労働ノ生産物ナリト云フ教授ノ説ガ、若シ學理上眞理ナリトセ

バ、生産費ニ關聯シテ減損ノ問題ガ生ズルコトモナク、又生産物ト資本財ヲ造リシ労働トノ關係問題ガ生ズルコトモナク、其他利子論上困難ナリト思考セラレ居ル種々ナル問題ハ全ク起リ得ザルコト、ナルベシ。乍然、學理上衣服ガ牧

童ノ今日ノ労働ノ産物ニ非ザルコトハ敢テ智者ヲ埃タズシテ明カナリ。社會ハ牧童ノ現在ニ於ケル労働ヲ、直チニ完成シタル衣服ノ形態ニ於テ享樂スルモノニ非ズ。社會ハ原料品ヨリ完成品ヲ造ル迄ノ生産過程ニ要スル日子ヲ待タザルベカラズ。

道ニ教授モ此明白ナル事實ガ教授ノ説ト合致セザルコトヲ看過スルコト能ハザリキ。仍テ之ヲ辯ズルガタメニ教授ハ下ノ如ク云ヘリ。曰ク、literally true ト virtually true 換言スレバ字義通リノ意味ニ於ケル眞理ト、實質的ノ意味ニ於ケル眞理トハ截然之ヲ明別セザルベカラズ。今日ノ完成品ガ、種々ナル生産階梯ニ於テ今日用キラレタル労働ノ産物ナリト云フ事ハ、字義通りニ解スベキモノニ非ズシテ、實質的ノ意味ニ解スベキナリ。「箇々ノ財ノ同一」(Identity of particular pieces)ト云フコトハ重要ナルコトニ非ズ。肝要ナルハ唯ダ「同種」ト云フコトナリ。實際上ニ於テハ、或ル一ノ財ヲ消費スルカ或ハ之

レト殆ド同様ナル他ノ財ヲ消費スルカハ重要ナル問題ニ非ズ、「同一」ト云フ觀念ヲ去ルコトハ今日ノ勞働ガ今日ノ享樂財ヲ齎ス所以ヲ解スルノ鍵鑰ナリ。コノ鍵鑰ガニ握レバ、苗木ノ植付ハ今日薪ヲ生ズルモノト考フルコトヲ得ベシト。教授ハ此思想ヲ各所ニ於テ、一方ヨリ貯水池ニ水ガ這入レバ他方ヨリ水ガ水車ニ流レ込ムコトニ譬ヘ、而シテ「同一」ト云フコトヲ忘ルベシト附言セリ。

教授ハ右ノ如ク、事實ノ一部ヲ無視セザルベカラズ、而モ其部分ハ重要ナル部分ニ非ズト述ベタリ。然レドモ事實ハ果シテ然ルカ、吾人ハ必ズシモ然ラズト信ズル者ナリ。尤モ彼ノ説ヲ作り上グル爲メニハ然ラン。サレド彼ノ説ハ彼自ラモ云ヘル如ク一ノ擬制説ナルヲ以テ、字義通りノ意味ニ於ケル眞理ハ飽ク迄缺欠セルモノナリ。ノミナラズ、吾人ハコレ以外更ニ缺欠セルモノヲ發見スベシ。奇ナルコトニハ、教授ハ字義通りノ意味ニ於ケル事實ニ近ヅクヨリモ、

ソレヨリ遠ザカルコトニヨリ、一層正確ニ眞理ニ到達シ得ルモノト信ジタリ。教授ニ從ヘバ資本及比利子ヲ正當ニ了解セシムルモノハ、生産期間及ビ「待ツ」ト云フ事ヲ含意セル資本財ニ非ズシテ、生産期間ヲ無カラシメ、勞働ト同時ニ其成果タル享樂財ヲ得セシムルノ力ヲ有スル眞資本ナリ。惟フニ教授ノ思考セル眞理ノ結構ハ正シク虚構ノ礎ノ上ニ建設セラレタルモノナリ。吾人ノ見ル所ヲ以テスレバ、眞理ハ決シテ斯ノ如キ基礎ノ上ニ建設セラルベキモノニ非ズ。科學ハ事實ノ眞相ヲ解シ之ヲ示スモノナラザルベカラズ。實際ニ於テ存スルモノヲ無視シ、又實際存セザルモノヲ存ストナス等、事實ニ細工ヲ加フルニ於テハ、如何デカ事實ヲ正確ニ傳ヘ得ベキ。斯ノ如キ細工ガ重大ナル影響ヲ及ボスコトナシト見ユル場合ニ於テモ、科學ハ敢テ虚構のナル假定ヲ許スモノニ非ザルナリ。

假令極ク僅カダケ事實ヨリ遠ザカルコト、雖モ、決シテ輕視スベキニ非ズ。蓋、其初メ差異

無ナキ場合ニ於テモ、後ニハ其差異漸次甚シクナルコトアルガ故ナリ。吾人ハ今ソレヲ詳述スルノ必要ヲ認メズ。其差異ハ教授ノ説ヲ實際ニ適用スルコトニヨリ容易ニ知り得ベシ。今假リニ原料品ガ造ラル、生産階梯ニ於テ労働者ノ同盟罷工アリタリトセヨ。若シ教授ノ説ガ文字通りノ意味ニ於テ、或ハ實質上ノ意味ニ於テ學理上眞理ナリトセバ、完成品 A'' ハ $A \cdot A' \cdot A''$ 等ノ生産階梯ニ於テ同一時間ニ用キラレタル労働ニ歸スベキモノナルヲ以テ、 A ニ於ケル仕事ノ停止ハ直チニ A'' ノ產出高ニ影響ヲ及ボスベキ筈ナリ。然ルニ實際ニ於テ斯ノ如キコト無キハ敢テ呶々ヲ要セズ。仕事ノ停止ガ完成品ノ產出高ニ影響ヲ及ボシ來ルハ將來ノ時期ニシテ其時期ハ生産期間ノ長短ニ應ジテ決セラル、モノナリ。

之ニ對スル教授ノ反駁ハ想像スルニ難カラズ。教授ハ恐ラク曰ハン。同盟罷工ハ既ニ設ケラレタル條件ヲ破壞スルモノナリ。斯ノ如キ動

的ナル場合ニハ、事情ニ相違ヲ來シ、資本財・生産期間・及ビ「待ツコト」等ガ影響ヲ及スニ至ルモノナリ。眞資本ガ労働ト同時ニ完成シタル成果ヲ得セシムト云フコトハ、條件ガ靜的ニシテ之ヲ妨グル原因ノ發生セザル場合ニ於テノミ妥當ナリト。

然レドモ此論法ニ誤謬アルコトヲ知ルハ難事ニ非ズ。此論法ガ誤謬ナルハ、眞理ハ常ニ一ニシテ、二箇ノ異リタル眞理ト云フモノガ存シ得ザルガ故ナリ。眞實ナルモノハ動的ニモ靜的ニモ眞實ナラザルベカラズ。此點ニ關シ教授自身ノ言ヲ引用シテ教授ニ反駁ヲ加ヘ得ルヲ喜ブ。

教授ハ靜態原理(Static theory)ト(Dynamic theory)トノ關係ヲ賞讃ニ値スル文句ヲ以テ述ベタリ。曰ハク、靜的狀態ガ空想的ノモノナルコトハ事實ナリ。總テノ具體的社會ハ動的ナリ。サレド之レガ爲メ靜態原理ノ結論ハ價值ナシト云フベカラズ。何トナレバ靜的法則ハ尙且ツ眞ノ法則ナルガ故ナリ。靜的狀態ノ下ニ働ク力ハ實

際ノ變化シツ、アル社會ニ於テモ亦働クモノナリ。唯動的社會ニ於テハ、ソノ上更ニ他ノ力ガ働クノミナリ。靜的ナル假定ガ事實ト相違スルハ茲ニ云フ他ノ力ガ一時度外視セラル、ガ爲メナリ。靜的狀態ノ下ニ働ク力ガ續イテ動の世界ニ於テ働ク間ハ靜的法則ハ依然トシテ正シキモノナリ。此場合自然價值ノ法則及ビ賃銀利子利潤ノ自然率ハ秋毫モ相違ヲ來スコトナシ。サレド靜的狀態ノ下ニ働ク力ガ動的ナル實際社會ニ於テモ働クコトハ餘リニ強ク力説シ難シ。云々。

此ハ總テ余ノ同意スル所ナリ。然レドモ此ノ理論タルヤ、毫モ二箇ノ眞理ノ存シ得ルコトヲ認ムルモノニ非ズ。蓋、教授ハ靜的眞理ハ動的狀態ノ下ニ於テモ眞理ナリト云フガ故ナリ。ノミナラズ教授自身ノ用キシ論法モ眞理ノ唯一ナルヲ認ム。教授ハ靜態原理ヲ述ブルニ當リ、靜的法則ヲ發見シ證明スルノ手段トシテ、靜的狀態ニ動的變化ヲ與フル實驗的檢證法ヲ用キタリ。最終單位ノ勞働ノ生産物ノミガ勞働者ニ歸

スベキコトヲ證明スルニ際シ、一人ノ勞働者ガ加ハリ又ハ減ズル時ニハ如何ナル結果ヲ齎スヤヲ穿鑿シタルガ如キ其一例ナリ。教授ハ、靜的眞理ヲ確ムル方法トシテ動的變化ヲ應用セシコト、マタ應用セザルベカラザルコトヲ自覺セシニ相違ナシ。何トナレバ教授ハ斯ノ如キ應用ヲ屢々反覆シ居ルガ故ナリ(例ヘバ Distribution of Wealth, pp. 178, 275, 371.)。

夫レニモ拘ラズ、教授ガ其創意ヲ誇ル眞資本ヲ論究スルヤ、全ク眼ヲ閉ジテ此事實ヲ見ザルガ如シ。總ジテ教授ハ、或要素ガ加ハリ又ハ減ズルコトニヨリ其生産額ニ如何ナル増減ヲ來スカヲ檢算スル方法トシテ、歸及ノ原理ヲ利用セリ。然ルニ「資本ハ時ノ間隔ヲ去ル作用ヲ有ス」ト云フ説ヲ述ブル場合ニハ、 A ノ階梯ニ働ク勞働者ノ有無ハ A ニ於ケル現在ノ生産高ニ影響ヲ及ボスモノニアラズシテ、唯 A ニ於ケル將來ノ生産額ニノミ影響スルモナルコト明瞭ナルニモ拘ラズ、教授ハ完成品 A ヲ以前ノ勞働ニ歸セシ

メズシテ同時ノ勞働ニ歸セシメタリ。

クラーク教授ハ斯ノ如ク時ニ關シテ錯誤ヲナシタル外、更ニ量ニ關シテモ錯誤ニ陥リ益迷路ニ彷徨セリ。教授ニシテ若シ完成品ノ產出高ト、實際ソレヲ生産セシ勞働トヲ比較セシナラバ、完成品ヲ造ルタメ第一ノ階梯ヨリ最後ノ階梯迄繼續スベキ一組ノ勞働ガ無クナル場合ニハ、必ズ生産物が皆無トナル所以ヲ發見セシナルベシ。試ミニ再ビ教授ノ假定セシ場合ニ就キテ思考スルコト、セン。即チ $A \cdot A' \cdot A'' \cdot A'''$ ナル四箇ノ生産階梯アリテ A ハ原料品ヲ、 A' ハ完成品ヲ表スモノトシ、更ニ混雜ヲ避クル爲メ、生産ハ一切地代ナキ土地ニ於テ、計算ニ入ル、要ナキ程僅少ナル固定資本ヲ用キテ行ハル、モノト假定ス。而シテ如斯假定ノ下ニ、丁度百箇ノ完成品 A''' ヲ造ルニ必要ナル丈ケノ勞働ガ、各生産階梯ニ於テ順次停止セラレタリト想像セヨ。即チ先ヅ、百箇ノ完成品ヲ造ルニ必要ナル勞働ガ A ノ階梯ニ於テ停止セラレ次ニ原料 A ガ A' ノ生

産階梯ニ送ラルベキ時ニ、百箇ノ A''' ヲ造ルニ必要ナル丈ケノ勞働ガ A' ノ階梯ニ於テ停止サレ斯クテ A''' ノ階梯ニ働ク勞働者モ A' ガ A'' ニ送ラルベキ時ニ百箇ノ A''' ヲ造ルニ必要ナル丈ケノ仕事ヲ停止スルモノトセヨ。而シテ今歸及ニヨル吟味ヲ行フベシ。然ラバ此數箇ノ生産階梯ニ於ケル勞働ノ停止ハ、完成品ノ生産高ノ上ニ何程ノ減少ヲ生ゼシムルヤ。云フ迄モナク其高ハ百箇ニシテ五十箇ニ非ズ、又八十箇ニモ非ザルナリ。蓋、中間財ノ $A \cdot A'$ 等ガ生産セラレザル場合ニハ、夫レニ應ジテ A''' モ亦之ヲ產出スルコト不能ナレバナリ。百箇ノ完成品ガ存在スルニ至ルヤ否ヤハ、 A ヨリ完成品ヲ造ル迄ノ一組ノ勞働ガ順次ニ全部用キラレタルヤ否ヤニ懸ルモノナリ。故ニ總テノ完成品 A''' ハ、教授ノ用キシ歸及ノ原則ニ從ヘバ、右ノ如キ實際上 A ヨリ順次完成品ヲ造リシ真ノ一組ノ勞働ニ歸セザルベカラザルナリ。而モ教授ガ他方ニ於テ勞働ハ同時ニ其成果タル享樂財ヲ生ムト云フ說ヲ保持シ、今

日ノ勞働ハ以前ノ勞働ニ相當スルモノナリト主張ストセバ、今日ノ勞働ニ、以前ノ勞働ニ歸スベキ量ト同量ノ完成品ヲ歸セシメザルベカラズ。即チ生産物Aノ全部ハ、悉ク之ヲ現在各階梯ニ分在シテ從業セル一組ノ勞働者ニ歸セシメ、而シテ勞働者以外ノモノニハ一切斯ノ如キ完成品ヲ歸セシムベカラザルナリ。然ルニ教授ハ斯クセズシテ宛モ當然ノコトナルガ如クニ、是等ノ勞働者ニ歸スベキ分前中ヨリ或部分ヲ切り取り、而シテ其切り取ラレタル部分ヲ、眞資本ノ生産物ナリトシテハ之ヲ眞資本ニ歸セシメタリ。

此切り取ラレシ部分、此資本ノ報酬コソ利子問題ノ中心點タルコト炳焉トシテ明白ナリ。然ルニ教授ハ資本ノ報酬ガ如何ニシテ發生スルニ至ルヤ、又如何ナル種類ノ勞働ノ一組ニヨリ生ズルニ至リシカラ推究セザリキ。詳言スレバ、教授ハ眞實ナル一組ノ勞働者——即チ原料ヨリ順次財ヲ引續ギテ働キシ一組ノ勞働者——ニヨ

リテ生ジタルニ非ザルヤ否ヤニ就キ毫モ考究スル所ナカリキ。其ハ蓋、其勞働者ノ一組ガ眞實ナルコトヲ發見シ得ザリシガ爲メナリ。教授ハ又虛偽ナル一組——即チ同時ニ各階梯ニ於テ働ク勞働者ノ一組——ニ就キテモ穿鑿セザリキ。是レ蓋此場合斯ノ如キ考究ハコレヲ爲シ得ズト思考セシガ爲メナリ。即チ此ノ虛偽ノ一組ノ勞働者が實際上、全然其完成品ヲ造リシニ非ザル以上斯ノ如キ種類ノ勞働者が總テノ完成品又ハ一部ノ完成品ヲ產ムト云フコトハ如何ニスルモ吟味シ得ザルガ爲メナリ。

クラーク教授ハ唯重要ナラザル點ニ於テノミ事實ヨリ離レシモノト思考セリ。シカモ教授ハ此第一ノ分離ノ蔭ニ隱レテ業ニ已ニ第二ノ分離ヲナシ、爲メニ重要ナル區別ヲ認ムル能ハズシテ、論議ヲ要スル難問題ヲ看過セリ。第一ニ教授ハ勞働ヲ其勞働ノ眞ニ生産セシ財ト對照セズシテ他ノ財ト對照シ、次ニ勞働ヲ其勞働ニヨリ眞ニ生産セラレシ量ト對照セズシテ他ノ量ト對

照セリ。即チ吾人ハ茲ニ再ビ教授ノ所謂眞資本ノ概念ガ齎ス背理的結果ト、夫ニ與ヘシ奇怪ナル力ヲ見ルニ至レリ。勞働ト同時ニ其成果タル享樂財ヲ得セシムト云フ不可思議ナル資本ノ性質ハ教授ヲシテ問題ノ眞髓ヲ看過スルノ口實ヲ與ヘ、且ツ空虚ナル解決ヲ叫バシメタリ。教授ハ、暗黙ノ中ニ、説明スベキコトヲ假定セリト云ハザルベカラズ。

五

クラーク教授ハ更ニ又全然別箇ノ方面即チ制慾ノ方面ヨリ利子問題ヲ、捕捉セント試ミタリ。然レドモ其論旨タルヤ以上紹介セシ教授ノ學說ヲ擁護補充スルコトナク寧ロ却テ之ト矛盾反對スルモノナリ。

教授曰ク。

凡ソ財ノ生産ハ。其或部分ハ之レヲ資本ニ歸スルコトヲ得。從ツテ制慾ト稱セラル、犠牲ニ歸スルコトヲ得。此點ヨリ觀ンバ Quarterly Journal of Economics, January 1890 ニ於

ケルギツディングス教授 (Giddings) ノ研究ハ尊重ニ値スルモノナリ (P. 398)。

註 クラーク教授ハ其著 Distribution of Wealth P. 138 ニ於テ「制慾ハ或享樂ヲ永久ニ放棄スルモノニシテ、且ツ眞ノ資本ヲ創造スルモノナリ」ト述ベタリ。(譯者)

即チ是ニ由テ見レバ、教授ハ所謂制慾說主張者ノ説明方法ヲ採ルモノト推察スルコトヲ得ベシ。然レドモ他ノ箇所ニ於テ此推察ヲ否定スルノ章句アリ。例ヘバ制慾ヲ「經濟的功績」ト認メ、之レニ據リテ利子ヲ是認セントスル者アルモ、吾人ヲ以テ之レヲ觀レバ、是レ無用ノ論ナリ (P. 138) ト述べ、又資本ノ生産力ヲ創造スル力コソ利子ノ基ナリ (P. 135) ト力說シ居ルガ如キ即チ其レナリ。是ヲ以テ見レバ、教授ハ利子ト云フモノガ正當ナルコトヲ辯ズルタメニサヘ制慾論ヲ用キルコトヲ欲セザルナリ。乍然、教授ガサラニ進ンテ「制慾ハ唯新シキ資本ノ創造トノミ關係ヲ有シ、從テ全ク動的現象ニ屬スルモノナリ」ト述べ、又資本學說ヲ靜的狀態ノ下ニ立テ、且ツ「靜的狀態ノ下ニ於テハ制慾ト云

フモノハ起ラズ」ト述ベタル所ヨリ見レバ、教授ハ、靜的現象ナル利子ノ理論的説明ヲ動的現象ナル制慾ニ求ムベカラズト主張スルモノ、如シ。

然リト雖モ尙ホ吾人ノ了解シ難キハ、教授ガ生産物ノ一部ヲ制慾ト云フ犠牲ニ歸セシメ、且ツ此點ニツキギツデイングス教授(Giddings)ノ言ニ賛意ヲ表シテ引證セシ一句ナリ。吾人ノ見ル處ヲ以テスレバ、ギツデイングス教授ノ主張ハ「資本ノ生産費ハ制慾ニヨリテ決セラル、モノナリ」ト云フニハアラデ「資本ノ生産費ハ、勞働時間ノ延長ニ伴フ疲勞ト倦怠(irksomeness)ノ増加ニヨリテ決セラル、モノナリ」ト云フニアリ。然ルニ教授ハ Full study of this point detain us too long ト述ベテコノ點ニ就キ精細ナル考究ヲ試ムルコトヲ回避セリ。茲ニ於テ余ハ唯二箇ノ一般の注意ヲ爲スノミニテ満足セント欲ス。曰ク、(一)制慾說ハ一定ノ前提ノ下ニ存立シ得ル說ニシテ、且ツクラーク教授ノ生産力說ト兩

立セシムルコト能ハザル結論ニ導クモノナリ。(二)制慾說夫レ自身ノ中ニ吟味シ批評スベキ點存スルモノナルガ故ニ、制慾說ニヨリテ利子ノ説明ヲ爲サント欲スル者ハ須ラク制慾說ノ吟味批評ヲ爲サルベカラズ。吟味ヲ要スル根本的觀念ヲ少シモ論究スルコトナク、唯單純ニ之ヲ認容スルニ於テハ、是レガ解決ハ斷ジテ期スベカラザルナリ。

六

以上吾人ハクラーク教授ノ說ヲ詳細ニ評論セシヲ以テ、最後ニ教授ノ說ノ全般ニ對シ結論ヲ下サントス。

抑モクラーク教授ハ其ノ豊富非凡ナル思想中ニ不幸ニシテ誤リタル觀念ヲ植付ケ、而モ教授ノ想像ハソレヲ眞實ナルガ如クニ描出セリ。此誤リタル觀念ハ教授ノ議論ノ全組織ニ傳染シ、斯クテ其說ノ或部分ノ如キ全ク此謬念ニ捕ハレテ遂ニ誤謬ニ陷ルニ至レリ。利子ノ説明ノ如キ生産期間ノ問題ヲ消滅セシムル說ノ如キ即チ其

例ナリ。而シテ教授が實際生活上ノ眞實ヲ捕捉スルニ成功セシ場合ハ、餘儀ナク時ニ自然的ナル方法ニ反スルノ結果ヲ齎ス技巧ヲ施シテ切り抜ケタリ。其例ハ吾人之ヲ「勞働ト資本トノ量の關係ノ變化ハ資本ノ形態及ビ勞働ノ種類ニ變化ヲ與ヘ、從テ全生産過程ニ變化ヲ與フルモノナルコト」ヲ述ベタル箇所ニ求メ得ベシ。(pp. 153, ff.; 170, 174, ff.; 186, ff.) 後例ノ理論タルヤ、「資本ノ使用トハ Capitalistic method of production ヲ應用スルト云フコトニシテ。從テ資本量ノ増減ハ生産方法ニ影響ヲ與フルモノナルコト」ヲ了解スル者ノ熟知セル所ナリ。然ルニ教授ハ之ヲ誤リタル見地ヨリ解セントセリ。即チ教授ハ一定額ノ資本——之ヲ皮相的ニ貨幣額ヲ以テ表シタリ——ヲ假定シ、而シテ資本額ノ變化ガ資本形態ニ變化ヲ與ヘ、資本形態ノ變化ハ更ニ勞働ノ用キ方ニ變化ヲ與フルニ至ルコトヲ發見セリ。乍然、全變化ハ事實上反ツテ勞働ノ用キ方ノ相違ニ始マルモノト云ハザルベカラズ。

教授ハ又或箇所ニ於テハ充分ナル説明ヲ試ミザリキ。是レ一ニハ教授獨特ノ見地ガ充分ナル説明ヲナスノ必要ヲ認メザリシガ爲メニシテ、二ニハ詳細ナル説明ヲナセバ却テ教授ノ資本觀ト事實トノ衝突ヲ見ルニ至ルガタメナリ。教授ハ眞資本ヲ研究スルニハ資本財ヲ論究スルノ必要アリト述ベタルニモ拘ラズ、其資本財論モ亦不充分ナリ。之ト同様ナル缺陷ハ價值論中ニモ之ヲ見出スコトヲ得ベシ。教授ガ時々眞ノ資本ト明白ナル事實又ハ定説トノ間ニ生ズル矛盾ヲ隱蔽シ得ザリシコトモ顯著ナル事實ナリ。

クラーク教授ヲマルクスト比較スルハ興味多キコトナリ。前者ハ自由競争ノ下ニ在ル近世社會ニ於テハ、各生産要素ハ其要素ガ生産セシモノヲ受クルニ至ル傾向ヲ有スト論ジ、後者ハ近世社會ノ特徴ハ勞働者ノ生産物ヲ資本家が掠奪スル點ニアリト述ベタリ。兩者ハ共ニ絶大ナル想像力ヲ有シ、等シク理論ノ基礎ヲ事實ノ上ニ置カズシテ空理ノ上ニ置ケリ。マルクスガアリ

ストートルニ溯リテ物資交換ノ眞髓ヲ勞働量ノ均一ニ發見シ、物資ヨリアラユル性質ヲ排除シテ物資ヲ單ニ勞働ノ結晶ト化セシメタルニ對シクラークハ資本ト資本財トハ區別スベキモノナリト假定シ、資本中ヨリ物質ト云フ觀念ヲ除去シテ資本ヲ永遠不朽ナル價值ノ結晶ト化セシメタリ。兩者ハ共ニ其理論ト事實トノ間ニ存スル矛盾ヲ暴露セシメザラント努力セリ。其結果マルクスハ競争ガ價值ノ上ニ及ボス影響ヲ等閑ニ附シ、クラークハ資本財論及ビ生産財ノ價值ニ關スル理論ヲ輕視セリ。

兩者ハ唯ニ其思考法ニ於テ近似セルノミナラズ、又議論ノ本質ニ於テモ、其結論ヲ異ニセルニ拘ラズ相類似セリ。マルクスハ熟練セル勞働者ノ一日ノ勞働ガ、普通ノ勞働者ノ數日ノ勞働ト同ジ價值ヲ有スルコトヲ辯明セシガ、クラーク教授モ全ク之ト同様ニ尤モ、技倆優レタル人即チ賃子高キ勞働者ハ、抽象的單位勞働ノ多數ニ當ル。蓋、彼ハ大ナル生産物ヲ造ル力量アレ

バナリ (p. 335) ト論述セリ。更ニ兩者ハ時ノ影響ヲ否認シ、生産期間ヲ誤解セル點ニ於テ類似ス。マルクスハ勞働ガ行ハレシ時ヨリ享樂財ノ生ズル迄ノ時ヲ無視シ、資本ガ勞働者ニ對スル前拂賃銀ナルコトヲ否定シ、勞働者ハ勞働ヲナシタル其瞬間ニ、將來其勞働ノ成果トシテ生ズル享樂財ヲ受クベキ筈ナリト結論セリ。クラーク教授モ亦勞働ハ生産期間ノ經過ヲ待タズシテ享樂財ヲ齎スト云ヘリ。クラークガマルクスノ説ト背反セルハ、之ヲ眞資本ト云フ怪物ニヨツテ説明セシ點ナリ。此妖怪的資本ハ其報酬トシテ、當然先ヅ資本財ニ歸セシムベキ生産物即チ終局ニ於テ其資本財ヲ造リタル勞働ニ歸セシムベキ生産物ヲ要求セリ。要之、マルクスハ分配論ノ基礎ヲ事實ノ上ニ置カズシテ空虛ナル議論ノ上ニ置キ、クラークハ此マルクスノ論法ト戰ハンガ爲メニ、更ニ之ニ優ルトモ劣ラザル空虛ナル議論ヲナセリト云ハザルベカラズ。

我が經濟學ハ、哲學ヲ除キテハ如何ナル學問

ヨリモ、ヨリ多ク用語ノ爲メニ苦メラレタリ、サレド近世科學ノ精神ニ觸ル、ニ及ビ、用語ハ漸次之ヲ批評的ニ思考シ、且ツ事實ヲ基礎トスルニ至レリ。經濟學ハ其基礎ノ一部ヲ經驗心理學ニ、而シテ他ノ一部ヲ自然科學ノ上ニ置クモノナルヲ以テ、經濟學ニ於テハ類似ノ學問ニ於ケルト同様決シテ基礎ナキ所ニ立論スベカラズ。然ルニクラーク教授ノ資本論ハ事實ト合致セズ。教授ノ說ハ正シク近世科學ノ常ニ踐ムベキ正道ヨリ背馳ス。此ノ故ニ吾人ハ資本ノ神話ヲ破壊シ、眞實ナル資本說ヲ擁護センガタメ、吾ガ尊敬スルクラーク教授ニ對シ極力反對シテ止マザルモノナリ。(完)